

「雪氷」74 巻の編集でお世話になったレフェリーの方々

秋田谷英次
河田 剛毅
山口 悟

石本 敬志
菊地 勝弘
山野井克己

遠藤八十一
島田 互
渡辺 晋生

上石 勲
竹内由香里

亀田 貴雄
成瀬 廉二

(敬称略, あいうえお順)

編 集 後 記

近年, 学会発表やシンポジウムなどの行事について, 国内外を問わず, 申し込み手続きはインターネット上の専用システム上で, 期日までに指定された web 上に所属や題目, 要旨等を入力する様なやり方が一般的になっています. 特に web 上の入力フォーム形式などの進展により, 申込者は指定された web アドレスを開き, 項目毎に記載されている説明に従って入力作業を進めることで, 容易に登録が可能となっています (コピー・アンド・ペースト (コピペ) が有効かつ有用な例の一つと言えるでしょう). こうした web システムの発達に伴い, 最近ではその行事についての問い合わせ先もシステム内に統合され, そのため「問い合わせ先は web アドレス (あるいは E メールアドレス) が一行書かれたのみ」という行事が年々増えていきます (数年前までは, E メール・web アドレスのほか, 電話・ファックス番号等, 考えられる全ての連絡方法が記載されていたものがほとんどでしたが). 登録情報を管理集約する実行委員的な立場から見ましても, 確かにこの様なシス

テムの活用は効率的であると思われますし, 利用者の立場として見てももちろん便利なものです. 連絡内容や状況にもよりますが, 相手が留守中でも (とりあえず) 要件を伝えておくことが可能である E メールなどは, 留守であれば連絡が取れない電話よりもはるかに好まれるでしょう. しかしながら, web アドレス一行だけの問い合わせ先というのは, どことなく不安・頼りなさを感じさせるものでもあります. 特に国際学会の場合, IGS (International Glaciological Society) 関連学会などであればともかく, 実行母体の素性がよく分からないようなものの場合, そうした不安をより一層強く感じてしまいます.

「雪氷」では, 問い合わせ先として電話・ファックスなども明記されている行事については, それらを完全に記載するようにしています. しかしながら, 昨今の状況を見ていると, 近い将来, 問い合わせ先は web アドレス一行のみ, というのが当たり前になるのかもしれませんが.

(根本征樹)